

# 川沿いの廃屋のホ ラー話 冒険のよ うな女子たちの一 日

平凡な週明け。

自宅から二キロほど、駅方面からは逆側の街の東の隅のカフェで女子が二人アイステイーを飲んでいた。

．．．．透明グラスが木のテーブルの上に置かれている。

隣街の市街地、廃屋横のビルの壁・・・・・・  
張り紙のようなものがあり、

そこにも怪しい字で書かれていたが今  
噂をされていることがある。

“草原の横の廃屋には近づいてはいけ  
ない”

川沿いの草むらのことである。

怪しい廃屋がある・・・・・・・・。

「へえー」

興味ありげな表情。小さな安堵のようなため息をついて女子たちが窓の外を見た。

落ちついたカフェの雰囲気とは異なり、  
道路の向こうはカー用品店、そしてその  
横は小さ目のホームセンターである。

空は白っぽくて車の通りは怪しいほど  
に少ない。

ふと・・・・・・・・人妻女子の一人は数日前  
のことを思い出した。



一階がファミレスになっている建物の  
上の階。

色々な事務所があり、彼女はとある用事  
であつた。

その日の夜の用事のことにははっきりと  
覚えているが、

今は太もも・・・・目の前のアイスティーに夢中である。

その日の夜、上階の事務所の前の廊下で  
20代半ばくらいの二人の男性が、

街で生じているホラーの噂話のことを話しているのをチラッと聞いたのだ。

少しだけよぎったが・・・・・・向かいに座るトモダチに視線を移し変えた。

・ ・ ・ ・ ・ ホラー屋敷。

その用事のあと道路沿いの歩道を歩き  
その道中、満月になりかけの月と星空を  
見た。

その後下着で夜遅くまですごしたの  
が・・・・・・・・。。。

きっとそれは怪しげな街の電灯。ホラー

屋敷とホラーの噂のこともずっと頭に  
に・・・・・・・・。

季節に関係なく綺麗で暗い夜空の  
下・・・・・・・・。

街はほんの少しだけ怪しく変わる。

その一角で・・・・・・・・。

近くの廃屋の話題が女子たちの間まで  
届き、噂になってから一週間ほど経過し、

（体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました）